



〔五つの感情の物語〕

～ ヨロコビ・カナシミ・イカリ・ムカムカ(けん悪)・ビビリ(おそれ)の世界 ～

昔から”人に与えられた感情は4つ”と言われてきました。それを「喜怒哀楽」といいます。

”人の持つ感情(feeling)”とは「喜び、怒り、哀しみ、楽しみ」であり

”情動(emotion)”「恐れ、不機嫌、けん悪、不安」などの情緒とは分けていました。

最近作られたディズニーフィクサープロダクションのアニメ映画

「インサイドヘッド2」の物語が公開されています。

その映画は「ヨロコビ・カナシミ・イカリ・ビビリ・イライラ・シンパイ」の6つの感情の仲間たちが思春期を迎えた主人公ライリーと繰り広げる物語なのだそうです(残念ながら私はまだ観ていません)。

この映画の前に「インサイドヘッド(原題はInside Out)」が作られ大ヒットしました。

『その物語は、「人間の少女の頭の中を舞台にそこに住む「ヨロコビ・カナシミ・イカリ・ケンオ・オソレ」の5つの感情を題材としており、擬人化されたそれらのキャラクターを主人公に据え、彼らが少女を幸せにすべく奮闘する様子が描かれているというのです。』

私はこの映画の製作のきっかけを知ったことからとても興味を持ちました。

この映画の監督か脚本家が、自分の2歳の子どもの行動を見て

前作「インサイドヘッド(2015年7月に公開)」を制作することを”ひらめいた”のだそうです。

『その物語の主人公の少女ライリーが誕生、誕生と同時にライリーの頭の中に「ヨロコビ」が生まれる。

そのあとすぐに、ライリーが泣き出すと「カナシミ」が生まれた。

ライリーが成長するにつれ、「イカリ」「ムカムカ(嫌悪)」「ビビリ(恐れ)」も生まれる。

それぞれの役割・分担があり、ヨロコビは喜ばせるとき、カナシミは悲しいとき、

ビビリはライリーの安全を守るとき、ムカムカは嫌な目に合わないようになっている、

そしてイカリは曲がったことが大嫌いで、怒った時に活躍する。



笑ったかす一番
遊んだかす一番

だっこされたかす一番
でかけたかす一番

やさしくされたかす一番
チャレンジしたかす一番

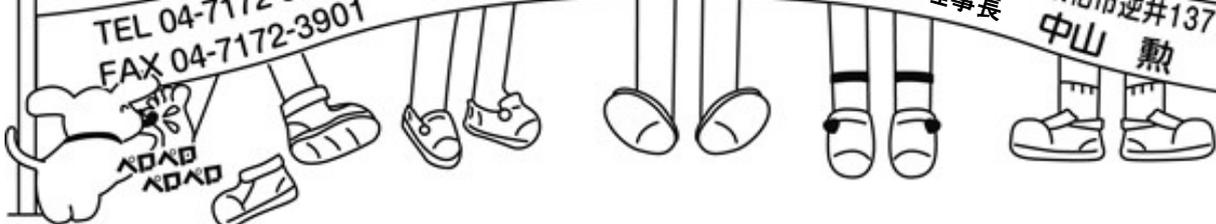


E-mail doushinkai@doushinkai.jp URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1
理事長 中山 勲



この5つの感情たちはライリーを一人の人格として作り出すために、頭の中の司令部で協力している。ライリーがピンチの時、それぞれの役目に応じて「感情のボタン」を操作することでライリーを救っていた。ライリーが体験して生まれた感情は、それぞれの色になり頭の中に蓄積されていく。色の種類は、ヨロコビは黄色、カナシミは青色、ムカムカは緑色、イカリは赤色、ビビりは紫色である』

私はこの映画のあらすじを知ったとき、改めて私たち(社福)童心会の人間教育(保育)をふり返ってみました。ご存知のように私たちの保育は「五感を刺激する0歳からの人間教育」なのです。子どもの誕生と同時に「生まれてきてくれてありがとう!」「生まれてきて良かった!」という言葉の中で天使のほほえみと共に”愛された育ち”というヨロコビが生まれました。ここから母親、父親、家族、養育者、ご近所の皆さま、そして私たち保育者仲間たちとの子育ての闘いが始まるのです。

私たちはこの世に生命を授けられたばかりの”赤ちゃんの表情、仕草、態度、天使のほほえみ”などの言葉を理解することから感情(feeling)のやりとりが始まります。

私たち保育者仲間たちは、子どもたちの発する”ヨロコビ・カナシミ・イカリ・ムカムカ・ビビり(こわがり)”などの非言語コミュニケーションから感情(喜怒哀楽)や情動(恐れ(ビビり)、不機嫌(イライラ)、嫌悪(ムカムカ)、不安(シンパイ))とのserve&return(やりとり・受けこたえ)が始まります。改めて私たちは0歳からの感情や情動とのやりとり、受けこたえがこの映画の主人公少女ライリーと同じように一人の人格を作り出す大切な役割を果たしていることを忘れてはならないのです。

私たち(社福)童心会は前に述べたように”五感を刺激する0歳(ばら組)からの人間教育”から「自分を創る・人を創る」という創造的な仕事に取り組んでいます。改めて私たちはその仕事、感情や情動のやりとり・受けこたえの中で次のような心を通い合わせています。

- ・ ふれあい ・ 見まもり ・ 思いやり
- ・ いたわり ・ はげまし ・ 思いやり
- ・ うるおい ・ 安らぎ ・ 思いやり

忘れないで下さい!

ふれあい、いたわり、うるおい、見まもり、はげましの中で穏やかでやすらぎのある”人創りの礎(いしずえ)”を創ることが私たちに与えられた使命なのです。

私はこの映画のあらすじを読んで改めて次のように思い知らされました。人はいつもこの世に生を授けられてから”生きる”と共に歩み続けています。

「ひとりで 生きる みんなと 生きる 人のために 生きる 助け合って 生きる」
インサイドヘッド この映画のあらすじはそれぞれの『感情・情動の働き』を補いあって助けあい、いろいろな経験・体験を宝物にしなが、それぞれが一人ひとりの人格を創造することの大切さと「助け合って 生きる」を問われているような気がします。』
そのために私たちが”幸せな生活(Well-being)”を育んでいかなければならないのです。

私たちと共に歩む皆さま方の”Well-being”をいつも祈り続けています。

どうぞ いつまでも お幸せに!!

令和6年 8月 吉日
社会福祉法人 童心会
理事長 中山 勲